

1 原稿種別： _____ (原稿種別については投稿規定を参照して記載)

2
3
4 投稿論文作成について

5 - 「エアロゾル研究」指定テンプレート -

6
7 エアロゾル 太郎^{1*}, 微粒子 さくら², 京都 学¹

8
9 Making Research Paper

10 - Template for “Earozoru Kenkyu” -

11
12 Taro EAROZORU^{1*}, Sakura BIRYUSHI², Manabu KYOTO¹

13
14 ¹ 日本エアロゾル学会

15 (〒600-8176 京都府京都市下京区烏丸通六条上ル北町 181)

16 ¹ Japan Association of Aerosol Science and Technology

17 Kitamachi 181, Shimogyo-ku, Kyoto, Kyoto 600-8176, Japan

18 ² エアロゾル大学 理工学部

19 (〒920-1192 石川県金沢市角間町 1)

20 ² Faculty of Science and Technology, Aerosol University

21 Kakuma-machi 1, Kanazawa, Ishikawa 920-1192, Japan

22 *Corresponding Author.

23 E-mail: earozoru_taro@jaast.jp (T. Earozoru)

24 Tel: 075-352-8065

25

1 **Abstract**

2 The length of the abstract should be 100-200 words. In abstract, the subject of the paper,
3 the methods, results and discussions should be summarized concisely.
4
5

6
7 (論文における目的, 方法, 結果, 考察を総括したものでなければならない。100
8 ~200 語程度の英文とする。なお, 本誌には英文のみ抄録を掲載する。また, 特
9 集記事, 解説記事, 一般記事 (巻頭言, 提言, アラカルト, マイウェイ, ニュー
10 フェイス, 行事報告, エアロゾル・スクエアなど) については, 必要としない。)

11

12 **Key words :** Term1, Term2, Term3, Term4,...

13 (キーワードは論文の内容を把握できるような重要な語を 5~10 語抽出し, 英
14 語で表記する。一般記事 (巻頭言, 提言, アラカルト, マイウェイ, ニューフェ
15 イス, 行事報告, エアロゾル・スクエアなど) については, 必要としない。)

16

17

1. 緒言

このテンプレートファイルは、「エアロゾル研究」に投稿するためのガイドラインを与えるものである。本テンプレートは「投稿規定」に基づき、執筆要領をまとめたものであり、本テンプレートに従い、体裁の整った、読みやすく理解しやすい原稿を作成すること。対応していないワープロソフトを使用する場合も、本テンプレートを参照し、原稿を作成すること。原稿は和文もしくは英文により作成したものに限り、「投稿規定」(<https://www.jaast.jp/kenkyu/index.shtml>)にしたがって執筆するものとし、これらに準拠していない場合は、原稿を受理しないことがある。

2. 本文

2.1 原稿用紙

原稿は A4 版用紙 1 枚におおむね 35 文字（全角）×32 行、12 ポイントのフォントで記入し、行間はできるだけ空ける。およそ 2 ページで刷り上がり 1 ページとなる。投稿原稿の長さは、和文、英文とも原則として下記に示すページ数（図表等を含む刷り上がりページ数）以内とする。

研究論文	6	討論	2
技術論文	6	特集記事	6
レビューペーパー	8	解説記事	6
研究速報	2	ニューフェイス	4
ノート	4	エアロゾル・スクエア	1/2
巻頭言	1	マイウェイ、アラカルト	2
提言	2	行事報告	2

文章の区切りには全角の読点「，」（カンマ）と句点「。」を用いる。章節項については、ゴシック体を使用する。本文原稿には必ず、ページ番号を付ける。

2.2 原稿の構成

原著論文と特集記事の原稿内容は i) abstract, 日本語抄録, キーワード (key words), ii) 本文, iii) nomenclature, iv) references, v) tables, vi) figures をもって構成する。

2.3 図・表・式番号の表記

本文中にでてくる図、表、式番号の表記は以下の書式に従う。

1) Fig.1, Fig.1, 2

- 1 2) Table 1, Tables 1, 2
 2 3) Eq.(1), Eqs.(1), (2)
 3 4) 図, 表の番号の初出のみゴチックとする。

4 2.4 使用記号

5 本文で使用する単位は国際単位系(SI)を用いる。また量記号, 単位記号, 化学
 6 記号および数学記号は原則として以下の表記に従う。

- 7 • 量記号は斜体 例: m (質量), ρ (密度), p (圧力)
- 8 • 無次元パラメータは斜体 例: Re, Pe, Kn, Fr
- 9 • 単位記号は直立体 例: N, Pa, N·m, J·kg⁻¹·K⁻¹
- 10 • 化学記号は直立体 例: He, C, H₂O, Ca²⁺
- 11 • 数値は直立体 例: 1, 2, 3
- 12 • 数学記号で定数と演算記号は原則として直立体, 変数記号は斜体
 13 例: e, log, sin, exp は直立体, dx/dt の d は
 14 直立体, x, t は斜体, f(x)はともに斜体
- 15 • ベクトルは太字
- 16 • 使用記号表において, 単位表示は()でくくる。量記号に続く単位は()でくく
 17 り, 値に続く単位は()でくくらない。
 18 例: $p(\text{Pa}), 55 \text{ Pa}$

19 2.5 数式の表記

20 式は行頭に揃えて書き, 式番号は式と同じ行に右寄せして () の中に書く。
 21 原則として数式エディタのポイント数は本文に準じるものとする。

22 例

$$23 \quad \bar{D}(t) = \frac{1}{N} \sum_{i=1}^N D_i(t) \quad (1)$$

$$24 \quad \frac{\partial C_A}{\partial t} + (\mathbf{u} \cdot \nabla C_A) = D_{AB} \nabla^2 C_A \quad (2)$$

25 使用記号については必要に応じて **Nomenclature** としてまとめて英文で説明す
 26 る。また, 説明箇所の英文は頭文字も小文字とする。

27

28 3. 引用文献(References)

29 3.1 引用項目

30 引用文献はすべて英文で記すこと。引用項目は

- 1 i) 著者名(原則として全員を列記する。著者名のイニシャルにピリオドを用い
2 る。)
- 3 ii) 論文題目または書名(単行本の中の 1 論文である場合には, 編者名を記し
4 「ed.」をつける)
- 5 iii) 雑誌名または発行所(欧文雑誌引用の場合,国際的慣用に従って誌名をピリオ
6 ドを用いて略記する。連続して同一雑誌を引用するときも, 「ibid.」を用いず,
7 雑誌名を記述すること。
- 8 iv) 巻数
- 9 v) 引用ページ
- 10 vi) 発行年号(西暦)
- 11 の順に記載する。受理決定の通知を受けた投稿論文を引用する時は, 最後に(in
12 press)と表記する。日本語文献については, 雑誌名の英文名を使用し, 英文表記の
13 ない文献の場合にはローマ字で記載し, どちらも最後に(in Japanese)と表記する。
14 また, 引用文献がプロシーディングスであった場合, 著者名, 講演題目, 学会・
15 討論会などの名称, 引用ページ, 開催年(括弧書き)を明記して示す。電子媒体の
16 場合には ISBN およびそのタイトルを記載する。また, オンラインで発表されて
17 いる文献は冊子版と同様に記載し, DOI(Digital Object Identifier)がある場合は, 文
18 献の終わりまたはページ数の代わりに記載することができる。Web 上の情報に
19 ついては原則として文献には認めないが, やむなく記載する場合は本文中に括弧
20 を用いて Website の URL とアクセス日を示す。同じ URL が本文中に何度も記載
21 されて繁雑になるときは脚注として記載しても良い。

22 引用文献のリストの表示方法は下記の掲載順, アルファベット順の 2 方法の
23 どちらでも良い。

24 3.2 掲載順の表記の場合

25 本文中に出てきた順に番号をつける。文中では, ○○¹⁾などのように引用した
26 部分に片括弧を用いて通し番号で示す。表や図の説明だけに引用した文献は,
27 その表や図が本文中に出てくる順番に従って番号をつける。

28 3.2.1 掲載順の例

29 References

- 30 1) Iinoya, K.:“Syujin Kogaku”, 3rd ed., p.96, Nikkan Kogyo (1980) (in Japanese)
- 31 2) Masuda, S.: Latest Progress in Electrostatic Precipitation, *Earozoru Kenkyu*, **1**, 6-16
- 32 (1986) (in Japanese)

- 1 3) Emi, H. and Otani, Y.: Removal of Fine Particles from Water by Pulse Air, *J. Aerosol*
2 *Sci.*, **16**, 155 (1995)
- 3 4) Furuuchi, M. and Kanaoka, C.: Influence of Geometry of Supersonic Virtual
4 Impactor on Separation Performance of Ultra-Fine Particles, *Proc. of 2006 Annual*
5 *Meeting of the Institute of Electrostatics Japan*, 171-172 (2006) (in Japanese)
- 6 5) Okuyama, K.: Aerosol Nanoparticle Research in Material Science and Engineering,
7 *Proc. of 2006 Annual Meeting of the Institute of Electrostatics Japan*,
8 CD-ROM(ISDN-XXXX) (2006) (in Japanese)
- 9 6) Murakami, M: What is Rainmaking, *Earozoru Kenkyu*, **30**, 5-13 (2015)
10 doi:10.11203/jar30.5 (in Japanese)
- 11 7) Sadakata, M: Development of Dry Desulfurization Process Using Chain Reaction For
12 Developing Countries, www.cdc.gov/nciod/EID/vol1no1/morse.htm (accessed 5 Jun
13 2015) (in Japanese)

14 3.3 アルファベット順の表記の場合

15 引用文献は著者名のアルファベット順に記載する。本文中での引用は該当人名
16 に(年号) (例: Emi *et al.* (2000)によると・・・), あるいは, 事項に(人名,
17 年号) (例: (Emi, 2000); (Emi and Otani, 2000); (Emi *et al.*, 2000)) をつけて引用する。
18 同一著者, 同一年号の場合には 年号の後に a, b, c (例:(Emi, 2000a), (Emi, 2000b))
19 をつける。

20 3.3.1 アルファベット順の例

21 **References**

- 22 Emi, H. and Otani, Y.: Removal of Fine Particles from Water by Pulse Air, *J. Aerosol Sci.*,
23 **16**, 155 (1995)
- 24 Furuuchi, M. and Kanaoka, C.: Influence of Geometry of Supersonic Virtual Impactor on
25 Separation Performance of Ultra-Fine Particles, *Proc. of 2006 Annual Meeting of the*
26 *Institute of Electrostatics Japan*, 171-172 (2006) (in Japanese)
- 27 Iinoya, K.:“Syujin Kogaku”, 3rd ed., p.96, Nikkan Kogyo (1980) (in Japanese)
- 28 Masuda, S.: Latest Progress in Electrostatic Precipitation, *Earozoru Kenkyu*, **1**, 6-16
29 (1986) (in Japanese)
- 30 Murakami, M: What is Rainmaking, *Earozoru Kenkyu*, **30**, 5-13 (2015)
31 doi:10.11203/jar30.5 (in Japanese)
- 32 Okuyama, K.: Aerosol Nanoparticle Research in Material Science and Engineering, *Proc.*

1 of 2006 Annual Meeting of the Institute of Electrostatics Japan, CD-ROM
2 (ISDN-XXXX) (2006) (in Japanese)

3 Sadakata, M: Development of Dry Desulfurization Process Using Chain Reaction For
4 Developing Countries, www.cdc.gov/nciod/EID/vol1no1/morse.htm (accessed 5 Jun
5 2015) (in Japanese)

6

7 4. 表 (Table) と図 (Figure) の作成

8 図や表の内容は原則としてすべて英文とする。図や表の作成方法は以下に従う
9 こととする。

- 10 1) 表は A4 判用紙 1 枚に 1 表ずつ記載し、本文中に引用された順序で番号をつ
11 ける。
- 12 2) 図は A4 判用紙 1 枚に 1 図ずつ作図し、本文中に引用された順序で番号をつ
13 ける。
- 14 3) 図は著者原稿をそのまま印刷原稿とするために、刷り上がりの大きさに縮小
15 した際の描線の太さ、文字の大きさなどに注意し、鮮明なものを用意する。
- 16 4) グラフ軸の単位は軸の名前の後にカッコ内で示す。
- 17 5) 各図にはキャプションを付け、図が何を表しているか明確に説明すること。
18 キャプションとタイトルは図と同じシートに記載するが、イメージの中を含
19 めず、テキストとして記入すること。

20

1

表の作成例

Table 1 Example of a table.

T (K)	c_p (J·kg ⁻¹ ·K ⁻¹)	H (Pa·s)
	×10 ³	×10 ⁻⁵
300.0	1.007	1.962
310.0	X.XXX	X.XXX
320.0	X.XXX	X.XXX

図の作成例

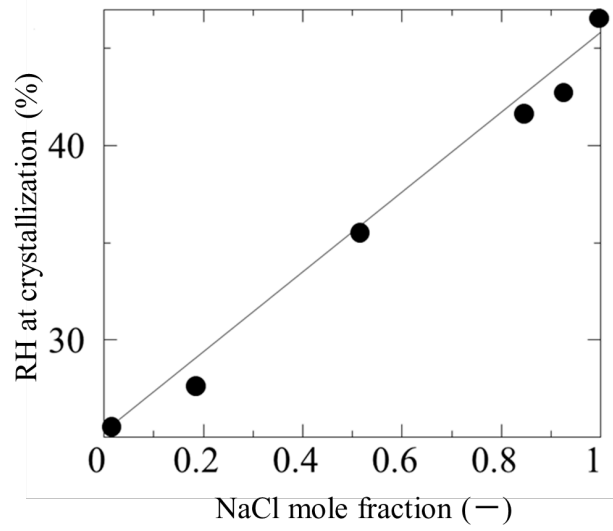
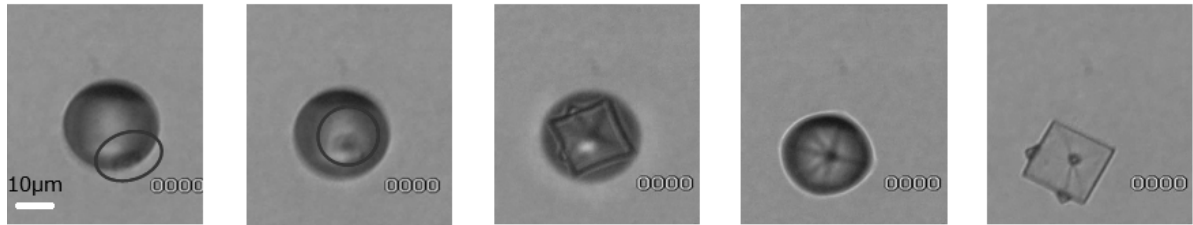


Fig. 1 Example of a figure. Solid circle (●) indicates the effects of composition of the mixed particle of NaCl and NaBr on the RH at crystallization from droplet.

(a)



(b)

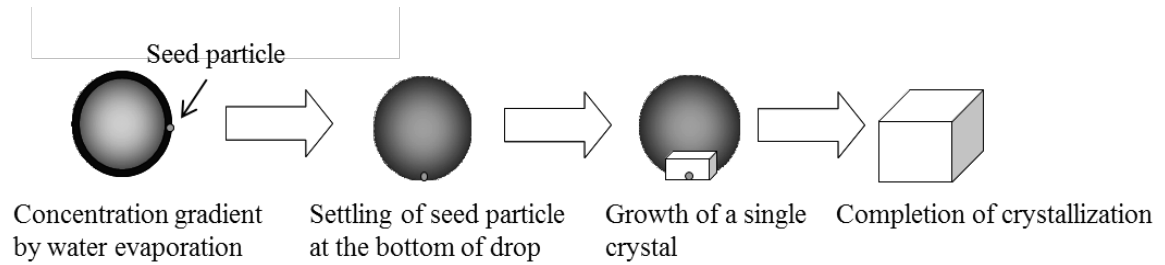
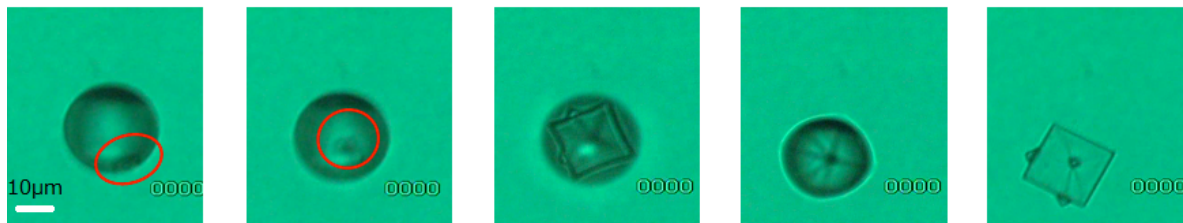


Fig.2 Example 2 of a figure (Online version in color).

(a) Photographs of crystallization, (b) Crystallization model

(a)



(b)

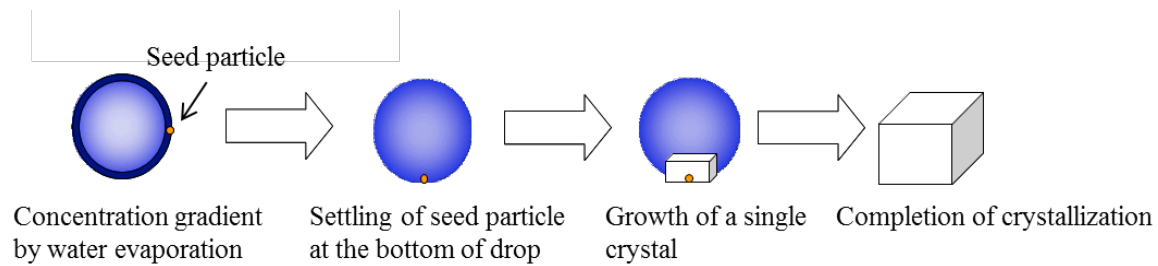


Fig.2 Example 2 of a figure (Online version in color).

(a) Photographs of crystallization, (b) Crystallization model